

2022 年度法学検定試験 合格体験談

ベーシック〈基礎〉コース

司法試験の合格をめざして

今回私が受験した理由は、大学に入って1年以上法律を学んできて、自分が初学者の段階を抜け出せたのかを判断する具体的かつ客観的なデータが欲しかったからです。そして、そのデータを得るために、特に法学検定試験を選んだのは、法学検定試験委員会の委員の先生方が、法学を学んでいる者ならば誰でも一度はその名前を目にしたことがあるような著名な方ばかりで、問題の質も信頼できると感じたためです。優秀な成績を取れば、表彰式で先生方にお会いできるのではないかという期待も大きなモチベーションになりました。また、もう一つこの試験を受けた理由をあげるとすれば、後述のように私は司法試験を目指しているので、難易度の差はあるかもしれませんが、司法試験の短答式試験の練習にもなると考えたからです。ベーシック〈基礎〉コースの憲法、民法、刑法の中で、とくに刑法は条文知識や暗記だけではなく論理的な問題も多く、頭の使い方を学べたと感じました。

勉強方法に関して、法学検定のためだけにやったことは、3週間程前から公式のテキストを1周解いて、間違えた問題に関して大学の授業レジュメや基本書などで確認し、似たような問題が出て大丈夫のように復習するといった程度のことでした。というのも、当該試験の点数をとるためだけの勉強をしても意味がないと思ったからです。ベーシックコースを受けるであろう初学者は特に、普段の法律の学習の中で身につけた知識や思考方法を第一次的には頼り、あくまで二次的に、問題の傾向や知識の穴の把握をするためにテキストを使うことで、本当に自分が法律を理解し始めているのかを試験で確かめることができると思います。復習において大学のレジュメを使ったのは、それを読むことによって、これまで学んだ、テキストには出てこない知識の記憶も喚起され、科目全体の復習にもつながると考えたからです。ただ、本当に法律を始めたばかりの方であれば、まだ復習するための教材などもそろっていないと思いますから、まずはテキストを何度も解いてその中で必要な知識をインプットするという方法も良いと思います。

私の最終目標としては、司法試験に合格し法曹になることですが、その途中では法学検定のスタンダード〈中級〉コースや行政書士試験、法科大学院入試の合格も目指しています。今回のベーシックコースの結果を受けて、自分の法学の勉強の方向性は、ある程度合っていることが確認できたので、この結果に慢心することなく、これからも目標に向けて地道に努力を重ねていきたいと思います。

少しでも、初学者の方に参考になれば幸いです。

(ベーシック〈基礎〉コース・最優秀賞・大原大輝さん 20歳・北海道)

法律知識の腕試しとして

私は札幌学院大学の法学部に所属しており、1年生のときに法学検定試験のベーシックコースを受験しました。受験を決めた大きな理由は、わが大学の法学部の制度にあります。わが大学では、法学部の1年生は、法律学習の最初の一步として全員がベーシックコースを受験します。そこで私は、自分自身がどこまで得点を取ることができるのかチャレンジしようと思いました。

本格的に試験の勉強を始めたのは、本番のおよそ1カ月前からです。試験勉強を始めるにあたり、最新版の問題集を購入し、反復と継続を意識しながら取り組みました。具体的には、間違った問題や正解したけれど不安だと思った問題に印をつけておき、2周目以降は印のついた問題のみを解いていきます。そして、2周目以降に間違えてしまった場合も、同様に問題に印をつけます。そうすることで、自分が苦手とする問題に集中して取り組めるため効率良く得点アップにつながられます。

私は将来、弁護士として働きたいと考えています。そのため、大学の夏休みの終わりごろからは予備校にも通い始めました。そこで得られた知識も、今回の試験で高得点を取れた理由だと思います。弁護士という職業は、いまさまざまな分野で活躍することができ、とても魅力的な職業だと感じています。弁護士になるまでの勉強は特に大変かもしれませんが、弁護士は法律の分野のプロであり、何かを目指すのであればその分野をつきつめたいという思いが強くなります。法学検定試験に合格したことは、自分の法律学習の第一歩となり、自らの法律知識への自信にもつながりました。今後も、日々の勉強を力強く継続していきたいと思っています。

(ベーシック〈基礎〉コース・優秀賞・村瀬裕矢さん 18歳・北海道)

法学の基礎知識の定着に

学内で法学検定試験の案内があった際、信州大学経法学部総合法律学科では毎年多くの学生が法学検定を受験しているとのことで、興味を持ちました。また、後期から本格的な法学の授業が始まりましたが、ただ講義を聞いているだけでは知識が定着していないと感じていました。ベーシック〈基礎〉コースは、法学の初学者も挑戦しやすいとのことだったので、講義で得た知識の定着のために受験を決めました。

ベーシック〈基礎〉コースは憲法、民法、刑法といった法律の基本的な知識が問われますが、出題範囲には授業で扱っていない分野も含まれていました。そこで、知らない条文や学説、判例の理解を優先して学習を進めました。まずは公式問題集の問題を解き、知らない条文や学説、判例が出てきたらテキストや問題集の解説をよく読むようにしました。また、過去に解いた問題について授業で扱ったときは、問題をもう一度解くことで復習になりました。1年生の私にとっては新たに知ることが多く、学習するのは大変でしたが、問題集やテキストを繰り返し読み込むことで徐々に知識が定着しました。公式問題集には重要な条文について様々な角度からの問題が複数収録されており、解説も丁寧なので初学者でも学習を進めることができました。また、2周目以降は間違えた問題や理解できなかった問題に付箋を付け、特に集中的に学習しました。私は勉強を始めたのが10月と遅かったのですが、通学時間や授業間の休憩を利用しましたので、問題集の基本的な理解を深めるのに十分な時間がとれました。

私は法学の知識の定着のために受験をしましたが、受験を通して目的が達成できたと感じます。ベーシック〈基礎〉コースは、基本的な法律の基礎知識を問う問題が出題されるので、授業の予習復習として活用することができると思います。今後は、スタンダード〈中級〉コース、アドバンスト〈上級〉コースの受験を通して、さらなるレベルアップを目指したいです。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・高山咲愛さん 19歳・信州大学)

法の基礎知識の確認

今回私は、大学での団体受験により法学検定ベーシック〈基礎〉コースを受験しました。前期からの授業で法学入門や憲法、民法、刑法を学んでいたため、基礎知識を確かめるためにも有意義な受験となりました。

勉強方法は、公式の問題集を繰り返し解き、理解を深めることが重要だと感じました。しかしながら、講義で学んでいない範囲もあったので、そのような箇所は問題集で確実に理解することが必要となりました。隙間時間も利用して問題と解説を繰り返し読むことが合格に繋がったと思います。完璧に理解をするのではなく、全体的に満遍なく知識を養っていくことが合格への近道になりました。加えて、講義で学んだ内容も多かったため、問題集は知識を固めていくのにとっても効率的な学習となりました。

将来の志望は、地域の課題点を認識し、行政側としてより良い町づくりに貢献できる地方公務員になりたいと考えています。今後も法学検定の勉強で得た知識を活かしながら、公務員試験に向けて法の知識を増やし、深めていきたいです。

(ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・張替祐汰さん 立正大学 1 年)

大学編入の一步として

私が法学検定試験を受験した理由は、法的思考力を養うことで大学編入学試験に役立てようと思ったからです。4月から法学を学び始め、それから7カ月後の11月になってから本格的な法学検定試験の準備に入りました。

勉強方法として、まずは法学検定試験問題集の問題をすべて解き、間違えたところに付箋を貼りました。次に付箋を貼った問題の演習を行い、理解できないところにはマーカーを引いて教科書を読み、先生の力も借りながら理解を深める努力をしました。また民法は登場人物が出てくる問題が多く、法律関係を図や絵にしてイメージしながら解くように意識しました。私にとって特に刑法が難しく、どうしても理解できない問題は、何度も何度も繰り返し解くように心掛けました。さらに、解答に困っている友人に解き方を教えることで、自分の理解の度合いを確認することもできたと思います。これらの作業を毎日コツコツと行い、今回ベーシック〈基礎〉コースに excellent 合格することができました。

自分を信じ、努力することが大事です。たゆまぬ努力により遠くにみえた excellent 合格が近づき、確実なものとなります。これからは、法学検定試験で得た知識を活かし、大学の編入学に向けて今まで以上に法学の学習に励みたいと思います。

(ベーシック〈基礎〉コース・グループ賞・園田穂乃香さん 19 歳・福岡カレッジ・オブ・ビジネス)

大学の授業の予習として

私が法学検定を受験した動機は自習を習慣づけることと大学の授業の予習になるのではないかと考えたからです。

勉強方法は問題集を反復しました。正解の選択肢だけを覚えるのではなく、他の選択肢のどこが間違っているのかということも意識して覚えるようにしました。そうすることで実際の試験のときも自信をもって回答することができました。

(ベーシック〈基礎〉コース excellent 合格・芦沢孝太郎さん 愛知大学法学部 1 年)

付箋を活用した学習方法

法学検定試験の存在を知ったのは、大学 2 年生の時でした。現在 (3 年生) 所属しているゼミの紹介文に「当ゼミは法学検定試験を通して法律をもう一度学んでいくことができる」と記載されていました。2 年生の上半期を無駄に過ごしてしまっていた当時の私は、法学の基礎知識さえもろくに覚えていなかったため、すぐにこの試験を受けることを決めました。

勉強方法は、問題集を一通り解き、間違えた問題のページに付箋を貼ります。2 周目にはその付箋が貼られた問題のみを解き、正解した場合には付箋を取るという行程を繰り返して取り組みました。間違えた問題で解説を読んだだけで理解できなかった箇所は、基本書を読んで、自分で図や表を書くなどして理解を深めることができました。

試験勉強を本格的に始めたのは、試験の 2 カ月前でした。所属していた部活で部長を務めていたのでなかなか勉強に時間を割くことができず、歯痒い気持ちを抱きながら隙間時間に上記の方法で勉強しておりました。勉強していく中で、「わからない」が「理解できた」に変わった時の爽快感・達成感を味わったことで、法を学ぶことの楽しさにあらためて気づきました。

私は大学卒業後に民間企業に勤める予定ですが、これまで学んできた法学知識を活用できるようにさらに学んでいこうと思っています。機会があれば、スタンダード〈中級〉コースを受験して法学知識をさらに深めていきたいと考えています。

(ベーシック〈基礎〉コース合格・大井文蓉さん 21 歳・愛知大学法学部法学科)

アフターコロナの受験

私は、法律をもう一度学び直したいという思いから法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースを受験しました。大学1年、2年と新型コロナウイルスの影響もあり、オンライン授業に加えてレポート課題を用いた成績評価でした。法学部に進学したものの、法律の学習に勤しむわけでもなく、その場しのぎの知識を付けて課題をこなす日々。本当のことを言えば法学について何も身につけていないなと自分自身感じていました。

そんな現状から脱して、何か1つでも大学で成し遂げたい、今まで逃げてきた法学にきちんと向き合いたい、と強く感じ、受験を決意しました。

ゼミ活動では、法学初学者向けに民法の基本書を初めから読み直し、そこで紹介されている過去の判例について、グループで報告を行いました。法学検定試験の問題集を用いた学習に加え、判例報告を行うことによって、日頃学んでいる法が実際にどのような場面で必要とされているのか、さらには該当する法律の適用可能性はどこまでなのかなどといった少し踏み込んだ部分にまで考えを広げることができました。

法学検定試験の問題集も、たしかに初めはとても難しく感じ、1周目はわからない問題ばかりでしたが、解説を読み込んで学習を重ねていくうちに、正解する問題が増えていきました。その内容も、大学の講義で学んだものからとても複雑なものまで多くあり、広く法学についての知識をつけることに大変役立つと感じました。

来年もぜひ法学検定試験を受験し、ひとつ上のスタンダード〈中級〉コースに合格したいと考えています。

(ベーシック〈基礎〉コース合格・福永涼介さん 21歳・愛知大学吉垣ゼミ・愛知県)

苦手分野を知ったことが1番の収穫

私の大学では講義の一環として法学検定試験の勉強をしていたことから、この機会にこれまで学んだ法律の知識がどれだけ身につけているか確かめたいと思い、受験に挑みました。また、今回グループ受験で挑んだため、仲間と一緒に合格しようという目標達成のモチベーションができたこともきっかけとなりました。

勉強方法は、法学検定試験の公式問題集を中心に勉強してきました。試験やテストなど覚える範囲が広い場合、いかに記憶を継続的に残すかが重要になってくると思いますが、私の場合は毎日コツコツ型で勉強していました。具体的には通学時間や空き時間などの隙間時間に行うこと以外に講義の一環として、まず予習として問題集から指定された問題を1週間のうちに30問勉強し、つぎの講義で先生が作成した小テストを受ける流れを4月から試験日近くまで行ってきました。そのため少しずつの進捗にはなるのですが、その分気持ち的にも負担がかからず楽に勉強ができたことや、勉強計画を立てやすいため他の勉強と並行してできました。さらに、一緒に受験する仲間と勉強することでわからないところは気軽に相談することができたため、すぐに新しい知識を得られ理解を深めることができました。復習に関しては、特にアウトプットに時間を費やすことを意識していました。①テストの翌日、②1ヵ月ごと、③試験直前の計3回は行うことで、今自分はどこまでが理解できているのか否かを確認できるため、効率よく継続的に覚えることができました。また、基本的な一般常識もあらためて知ることができました。試験日近くには、追い込みとして問題集を何度も見返したり、今まで受けた小テストを解き直し、知識を定着させていきました。

結果としては、自分の満足のゆく点数をとるという目標は成し遂げることができなかつたため悔いが残りました。しかし、合格に向けてのプレッシャーや緊張がある中、今まで勉強した努力が実を結ぶことができたためうれしく思いました。

今回の法学検定試験を通して、自分が苦手とする分野を発見できたことが1番の収穫でした。そのため今回学んだ知識を忘れずとどめておくことはもちろんのこと、これから苦手とする分野を重点的に勉強し、また機会があれば上位のスタンダード〈中級〉コースに挑戦したいと考えています。

(ベーシック〈基礎〉コース合格・川浦幸夏さん 帝京大学中岡ゼミ)

スタンダード〈中級〉コース

本質的で楽しい法律学習へ

僕はある大学の一貫教育校に在学している中学 3 年生です。裁判の傍聴をしたことがきっかけで法曹、特に刑事弁護を扱う弁護士を志すようになり、現在、高校・大学在学中に司法試験予備試験に合格することを目指して勉強しています。今年度の法学検定試験を受験したのは、これまでに学んだ法律知識を再確認するとともに、現在の自分の実力を試したかったためです。

試験対策の勉強は、公式問題集を用いて約 1 カ月前から始めました。具体的な方法としては、まず問題を一通り解いていき、間違えた問題や、正解はしたが理解の浅い問題に付箋を貼っていくという方法を採用しました。このとき、前者には赤色、後者には黄色の付箋を貼ることで自分の理解度が視覚的にわかりやすいようにします。そして、付箋のついた問題については、解説を読むだけでなく、六法で条文を引いたり、基本書や判例集にあたってマークしたりすることで、より本質的な理解を得られるようにしました。これを何度も繰り返すことで、最終的にはほとんどすべての問題について理由付けとともに正解を導き出せるようになりました。スタンダード〈中級〉コースの試験問題は問題集からの出題が多いので、解答を丸暗記してしまうということもできなくはないですが、そうではなくきちんと論理構成をとらえて理解するというところにこだわりました。

このような学習をしたことによって、今年度の試験で最優秀賞という高い評価をいただけただけでなく、以前学習したものの忘れかけていた分野や論点などについて理解し直すことができました。そして、それまで曖昧にしか理解できていなかったことを、明確な理由付け・論理構成で本質的に理解できたときの楽しみを味わうことができ、知的好奇心が大変満たされるような勉強ができたと思います。

法律学習は、条文知識や判例を暗記する学習だと考えてしまうと苦痛に思えます。しかし、そうではなく、論理構成や理由付けをはっきりとらえて論点を理解し、それを条文とともに体系化して飲み込んでいくという学習であると考えれば、とても楽しく魅力的な学問にみえてくるのではないのでしょうか。

今回の試験によって、さまざまな知識を再確認できただけでなく、これまでよりさらに法律学習が楽しいと思えるようになりました。これからも日々努力を続け、アドバンス〈上級〉コースの受験も視野にいれつつ、予備試験合格という第一の目標を達成したいと考えています。

(スタンダード〈中級〉コース・最優秀賞・高橋蒼さん 15 歳・千葉県)

次のステップに向けた力試し

大学の法学部を卒業して約 30 年。会社に就職して、色々な職務を経験してきました。法律を活用しなければ解決できない場面にも多く遭遇し、実務と勉強を兼ねて社会保険労務士、宅建士、行政書士など法律系の資格を取得してきました。

せっくなので、つぎは、司法書士の資格を目指してみようと思っています。しかし、難易度も高く、勉強時間もなかなか捻出できません。そこで、次のステップへの橋渡しとして、適度な難易度の資格がないか探していました。

司法書士試験の受験科目には、刑法と民事訴訟法があります。これまで受験した資格には、これらの科目はありませんでした。調べてみると法学検定試験にはあります。これが受験の動機でした。

また、この試験対策用の書籍として「法学検定試験問題集」があります。この問題集の解説が秀逸で、法意を踏まえた本質的なものであったことから、今後も応用が利き、単純暗記が苦手な私には、非常に魅力的な試験に思えました。

試験勉強の方法はいたってシンプルです。問題集を解き、解説を読み、理解ができないところは、司法書士受験用の参考書を読み、それでもわからない場合には専門書を読みました。もちろん、一度ではすぐ忘れてしまうので、間違えた問題は自分で解説ができるようになるまで毎日繰り返します。解答できた問題も、1 週間に一度は解くようにしていました。

3 カ月程度の勉強期間を設定しました。その間、全問題を少なくとも 10 回程度解いた形となりました。なお、受験自体はしなかったものの、ベーシック(基礎)コースの問題集も 1 度は解いて、それからスタンダード(中級)コースの問題集を解き始めました。

受験後は、それなりの手ごたえは感じていたものの、問題集にはない問題に苦戦したことから、まさか最優秀賞をいただけるとは思っていませんでした。各種の資格勉強を通じ、未知の問題に対応できる知識が頭に入っていたこと、専門書などを読み、各法律が実現したい内容、法意を理解するよう努めたことが功を奏したのだと思います。

今回の受験は、とてもよい経験となりました。今後も、業務状況を見ながら、次のステップに向けた勉強を少しずつ行っていきたいと思います。

(スタンダード(中級)コース・最優秀賞・藤本佳孝さん 52 歳・東京都)

大学での団体受験の取組み

金沢大学人間社会学域法学類では、法学検定試験合格者(スタンダード(中級)コース・アドバンス(上級)コース)に対する単位認定や受験者に対する受験料助成、編入学試験においてベーシック(基礎)コースの合格を出願要件にする等、法学検定試験を活用する取組みを行ってきました。この度、スタンダード(中級)コース団体賞合格率の部で第 3 位となることができたのも、こうした取組みの結果として、法学検定試験を受験してくれた多くの学生さん達の努力の賜物であると思います。これからも本学類では法学検定試験の教育現場での活用に一層取り組んでいきたいと思っています。

(スタンダード(中級)コース・団体賞・金沢大学人間社会学域法学類長 中村正人先生)

14年間の団体受験の取組み

国土舘大学法学部では、2009年以來14年間（13回）にわたって法学検定試験の団体受験を実施してきた。2009年は、29人の申込者からスタートし、計12人が合格した。2015年に初めて受験者が50人を突破し、2018年には98人が受験、合格者も50人を上回った。2019年には167人が受験し、合格者も100人を超えた。2020年はコロナ感染拡大のため団体受験を中止したが、2021年には初めて団体賞3つ（スタンダード合格率の部2位、スタンダード合格者数の部3位、ベーシック合格者数の部3位）を受賞した。2022年には204人が受験し、合格者も120人を超え、団体賞（スタンダード合格者数の部3位）を受賞した。団体賞を2年続けて受賞したことは大きな喜びであり、法学部の自信となった。

法学部では、法研合宿という教員5～6人が参加し希望する学生を集めて行う夏休みの勉強合宿を50年以上前から続けてきた。団体受験を実施するようになった頃から、試験科目である法学・憲法・民法・刑法のコースを3級（現在のスタンダード〈中級〉コースに相当）・4級（現在のベーシック〈基礎〉コースに相当）用にそれぞれ設け、問題を皆で解くことを始めた。これが多くの学生を集め、1年生は4級コース、2年生は3級コース、3年生は公務員コースやロースクールコースに参加し、4年次の受験に備える、というスタイルが確立された。2年生になると宅建や行政書士試験を受ける学生も出てくるが、まずは法学検定試験から、という意識が定着した。法学検定試験で択一式の試験を受けることに慣れ、他の検定試験も次々受ける。そうすると、公務員試験やロースクール入試にも合格するようになるのである。法学部では、17～8年前から各種資格試験合格者に単位を認定してきたが、ベーシック〈基礎〉コースに2単位を認めたことも、受験者の増大につながったように思う。

今後は、合格率を上げ、受験したのに不合格でかえって自信を失ってしまうということを少しでもなくしていきたい。「受けるからには受かる」が合言葉だ。

（スタンダード〈中級〉コース・団体賞・国土舘大学法学部教員）

アドバンスト〈上級〉コース

法律というフィールドに関心があるシニアに是非受験してほしい

1 受験の動機

私は、現在 74 歳の高齢者です。60 歳で地方民間企業を定年退職し、その後好きな温泉巡りなどをしながら、今日まで非常勤ですが、企業に月に数日程度出社しています。

2022 年 10 月、たまたま散歩途上に地元の書店で本法学検定試験制度があることを知り、さらに学生時代の商法ゼミの恩師が本試験委員を務められていることから受験への意欲が湧きました。さらに、自己の法的知識のレベル確認や体系的整理をしたいこと、および脳の老化防止も期待できることから受験を決意しました。

2 勉強方法

(1) 民法、民事訴訟法および商法については、既存の知識レベルで対応できることから、法学検定試験委員会編『法学検定試験過去問集アドバンスト〈上級〉コース』を利用して弱点の強化・補強をすることとしました。勉強時間は少なめでしたが、判例付六法を頻りに参照し、部分的には判例百選、参考書を利用しました。(2) 憲法、刑法および法学については、まったく実力不足でした。しかし、基本書等から勉強する時間的余裕がなく、そこで『2022 年法学検定試験問題集スタンダード〈中級〉コース』および同アドバンスト〈上級〉コースの過去問集を解くことにしました。①憲法については、その傾向から重要判例の正確な理解と記憶が必要であることがわかりました。②刑法については、択一問題が多く正確な知識が要求され、また難解な分野からの出題が多いといえます。しかし、勉強すればするほど得点は伸びる科目と感じました。③法学は、既存の知識はありませんでした。全 10 問の中から 5 問を選択する方式でしたので、法社会学、比較法、日本法制史、司法制度論を選択することとし、問題集・過去問集以外の知識は基本書学習から補足しました。(3) 試験当日の対策として、自信のある科目で、かつ組合せ問題からはじめ、見解問題や長文問題は後回しにし、難解な問題は悩まず捨て問として時間を浪費しないことにしました。

3 将来の目標等（本試験の効用）

シニアにとって本試験を受験する効用は、①法的知識の整理、体系的な理解 ②自己の弱点分野の把握（私の場合、改正後債権法） ③勤務先や知人から受ける法律の相談などに資すること、さらに副次的には自己の脳の活性化です。

私は、今後も法律というフィールドに大に関心を持ち、仕事上も法律と何らかのかかわりを持ち続け生涯にわたり学習を継続したいと思います。

(アドバンスト〈上級〉コース・優秀賞・星芳夫さん 74 歳・新潟県)